



湘南ベルマーレ

笑顔がつないだ、地域との第一歩 1/2

湘南ベルマーレは、2025シーズンの新人選手による「Jリーグ新人研修」において、介護付きホームへの訪問交流を通じたチャレン! 活動を実施しました。選手たちは介護施設のご入居者さまとレクリエーションを行い、笑顔あふれる時間を共有するとともに、スポーツの力で地域の方々に元気とつながりを届けました。選手自身が地域課題への理解と貢献意識を深めるこの活動は、共感と継続の価値を示しています。



活動場所 SOMPOケアラヴィーレ湘南平塚、SOMPOケア ラヴィーレ湘南平塚式番館

**協働者**

企業、住民、ファン・サポーター、選手、介護付きホーム
 (介護付有料老人ホーム)

協働者名

SOMPOケアラヴィーレ湘南平塚、SOMPOケア ラヴィーレ湘南平塚式番館、RIZAPグループ株式会社



協働者の声 ラヴィーレ湘南平塚式番館 ホーム長/金野 光成 氏



「地域に根差す」という地域密着の理念に共感し、湘南ベルマーレ様の新人研修に協力させていただきました。選手とご入居者様の交流は大変貴重な機会となり、喜びの声をたくさんいただきました。本取り組みが双方に新たな気づきをもたらし、継続することに期待しています。

**活動詳細情報**1 [公式サイト](#)2 [公式X](#)**カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ**



湘南ベルマーレ

笑顔がつないだ、地域との第一歩 2/2

Story

湘南ベルマーレは、2025シーズンに加入した新人選手を対象とした「Jリーグ新人研修」の一環として、クラブとして初めて介護付きホームを訪問する地域交流活動を実施しました。本取り組みは、プロサッカー選手としての競技力向上だけでなく、地域社会との関わりを通じて、自らが多くの人に支えられている存在であることを実感する機会として位置づけられています。

10月22日、田村蒼生選手、石橋瀬凧選手、松本果成選手、本多康太郎選手、渡邊啓吾選手の5名が、介護付きホーム「SOMPOケア ラヴィーレ湘南平塚」、「SOMPOケア ラヴィーレ湘南平塚貳番館」を訪問しました。



事前にオンラインミーティングを行い、施設での生活やご入居者さまの状況について理解を深めた上で当日を迎えました。

当日は、風船や柔らかいボールを使った軽い体操やレクリエーションを通じて、ご入居者さまと直接交流しました。選手たちは目線を合わせ、声を掛け合いながら一つひとつの動作を丁寧に行い、会場には自然と笑顔と会話が広がりました。普段スタジアムで声援を受ける立場にある選手たちにとって、地域の方々と同じ時間を共有する体験は新鮮であり、多くの気づきを得る時間となりました。

選手からは「自分たちが地域の方々に支えられていることを改めて感じた」「言葉や笑顔に元気をもらった」といった声が聞かれ、交流を通じて得た温かさは、プロとしての原点を見つめ直すきっかけとなりました。一方、ご入居者さまからも「若い選手と話せて元気をもらった」「また来てほしい」といった声が寄せられ、双方にとって心に残る時間となりました。



クラブとして初めて取り組んだ新人研修での地域交流は、何か特別な成果を求めるものではなく、人と人が向き合い、同じ時間を過ごすことの大切さを改めて確認する機会でした。この最初の一步で得た気づきを大切に、湘南ベルマーレは人と人とのつながりを育みながら、地域とともに歩む活動をこれからも継続して積み重ねていきます。